

# リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2023年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務			作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)		
工期	令和5年4月24日 ~		令和6年3月31日	作成者	鈴木 悠平		
作業名称	排水管補修工		作業手順書	作成年月日	令和3年5月7日		
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	連絡車			改正年月日			
使用工具、機器 材料等(具体的な 寸法を記す)	レンチ、スパナ、インパクトドライバー			現場責任者			
	カッターナイフ、ウエス、養生テープ			協力会社	会社名 -		
保護具	ヘルメット、手袋(刃物作業時は耐切削用)			作業順序	1	現地確認	
	自動車運転免許証 振動工具				2	準備作業	
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す					3	材料、道具運搬	
					4	掘削(人力)	
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	作業責任者 1人、作業員 2人、保安員 2人				5	排水管補修	
	合計 5名				6	片付け	
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)		周知会実施日		令和3年5月7日	7	
	(役割を確認してこの作業に関わ る全員が自署サインする)					8	

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可 能 性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対する周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対する指示
	×	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
	×	×○	××	△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
	×	×△	××	××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対する指示 1=関係者に対する周知

作業項目	手順	急所	リスクの洗い出し	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための実施すべき事項の特定(防止対策)
(誰が)	主なステップ	作業のポイント	(予想されるミス・ロス)						
現地確認(全員)	作業箇所確認	危険ポイントの確認							
	周辺安全確認	構造物の確認							
準備作業(全員)	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認							
	車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認							
		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締めめの位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。							
材料、道具の運搬 (責任者、作業員、保安員)	車両を安全な位置に停車する。	輪留め、ハンドル切り、サイドブレーキ。	車両停車後、車両が通行車線に飛び出て、一般車両と接触する。	△	×	△×	4		輪留め、ハンドル切り、サイドブレーキを確実にを行う。
保安員配置(全員)	落石の危険性があるため、保安員を配置する	足元注意							
	退避場所を確認し、退避の合図を決める	周囲確認							
掘削(人力) (責任者、作業員)	破損箇所周辺をスコップ等を使用し掘削する	手元注意	スコップ等で手を切削する	△	△	△△	3		耐切削手袋を着用し、作業する。
排水管補修 半割型ソケット設置 (責任者、作業員)	半割型ソケットを設置し、ボルト固定する	手元注意							
後片付け (責任者、作業員)	清掃	破片、工具等が残っている							工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事